

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 15 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2013 年 12 月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるにお力を貸して下さい。

地域防災活動特集

太尾宮前地区合同避難訓練に参加

11 月 14 日太尾宮前地区の合同避難訓練が開催され、近隣保育園、港北区地域子育て支援拠点どろっぷ（災ボラ会員）も参加して、大規模地震が発生したという想定の下、ライフ大倉山店へ親子で避難後、「煙体験」「水消火器体験」「AED 体験」（アスリエスポーツクラブ指導）という内容の訓練に参加しました。

ライフ大倉山店と太尾宮前町会、港北消防署は 2012 年 11 月に「消防応援協力に関する覚書」を締結しました。協力内容は、大規模震災時に同店を一時避難場所として提供する、避難場所への誘導を同店・同町会が相互に協力して行うことなどが盛り込まれています。同地区では、地域関係が希薄になっている今だからこそ「顔の見える関係」を創りつなげていこう、をモットーに数々のイベント等を開催している『太尾宮前地域まちづくり運営協議会』があり、そのメンバーである保育園、どろっぷも今回の避難訓練に参加することになりました。

当日は地震が発生したとして、スタッフを含め大人 9 名、子ども 6 名で、どろっぷからライフまで避難しました。もちろん想定なので、道路もブロック塀も壊れてはいなく、スタスタと歩いて一番に避難先に到着したのですが、「これが本当の地震だったらこんなにスムーズには歩けないよね」「自分がよく通る場所の危ないところもチェックしておいた方がいいかもね」とみんなで話し合いました。

保育園の先生は子ども達の手をひき、抱っこやおんぶで避難してきました。どろっぷは必ず保護者がいるので、子どもの安全は親の責任の下で、とお願いしています。それでも大きな荷

物を持って、きょうだい児を抱えての避難はものすごく大変なこと。さらに、普段とは違う様子の中では子ども達もだんだんとぐずってくるでしょう。泣き出す、



ライフ目指して避難中

騒ぐ、駆け回る、大声を発する等々子どもならあって当たり前のことであっても、親としては「周囲に迷惑をかけているのでは？」と気を遣う場面も出てきます。先日の浦安視察の際に「子育て家庭は災害弱者である」というお話を伺いましたが、その時の話を思い浮かべつつ、そういった状況下では、スタッフとして、子育て中の親子をどうサポートしていけばいいのか、どんなものを準備しておくべきなのか、というこ



真剣！水消火器訓練

とを改めて考える機会ともなりました。「煙体験」「水消火器体験」は初めて！という親子も多かったです。参加者には携

帯トイレのお土産がありましたが、これも切実な問題です。災害はいつの日か必ずやってきます。いくら「想定」しても「想定外」のことばかり起きるかもしれません。だからこそ、ふだんから準備をしたり訓練をしておくのとおかないのでは、いざという時の対応がまったく違うでしょう。どろっぷでも月に 1 回、避難訓練を行っています。地域の防災訓練と併せて、ぜひ参加して下さい。（港北区地域子育て支援拠点どろっぷ）

ライフ大倉山店 店長に伺う

合同避難訓練に敷地を提供したライフの押尾店長は「地域に生きる小売業として出来るお手伝いはしたい。幸い敷地が広いのでこのような場を提供できた。3, 11 の時にいた店では品物を途切らす事無く提供できた。いざという時は食料品を最大限提供したいし、隣は薬局だから色々な拠点となりうる」と頼もしいお話しをしてくれました。区内の企業との連携のモデルケースとして地域の知恵と力を集めた新しい防災訓練が期待できそうです。

第7回定例会報告

2013年11月20日(水) AM10時～

港北区福祉保健活動拠点多目的研修室

出席者：井上会長(港北区ボラ連)、倉橋(港北区役所地域振興課)、港北区ボラ連、富士塚ボランティアグループ、国際救急法研究所、手話サークルあじさいの会、港北区地域子育て支援拠点どろっふ、国際交流ラウンジ、手話サークル梅の会、仲手原マザーズクラブ、個人会員8名、事務局片桐、山本

司会＝白井副会長 記録＝和田・合計20名

議事内容

1) 10月定例会は台風の為中止とし、その連絡を連絡網で流したが、完全に伝わっていなかったことから、連絡網及びメーリングリスト(以下ML)について検討した。

- ・電話連絡網とML両方にながしては？
- ・MLは一日一回は見てほしい
- ・電話は必ずその日の内に連絡が付く方法
- ・MLを2種類に分けて使用したほうが良い
- ・ML上で意見交換はやめてほしい。緊急の場合だけで良いのでは
- ・電話連絡網を非常時に使用するの是不適当ではないか
- ・MLを日常的に使用し馴れていってはどうか

*非常時対応法を役員会で決めて報告する

2) フィリピンの台風被害救援の災ボラでの募金活動について会員より提案があった

- ・地域の方々に災ボラの事を知ってもらう為にも募金活動を進めたい
- ・募金活動をするには災ボラとしてのルールを決めた方が活動がしやすくなるのでは
- ・募金をどこへ送るか(相手先がしっかりした団体であるか等)
- ・募金活動を積極的に考えてほしい

※フィリピン台風の募金活動に賛同された方は半数以上

3) 各タスク進捗報告

- シミュレーション ボランティアセンター運営の流れを訓練する
- ハンドブック 修正しながら進めている
- 組織・PR パネル4枚作成し、既に4地域で活用されている

新田地区で3名入会された

- ホームページ 活動の内容を細かく掲示
- イベントタスク 2月1日(土)災ボラセミナーに向けて進めている。

4) その他

12月1日(日)高田東小学校防災訓練に災ボラとして参加 参加者：白井さん・室伏さん

5) 12月7日(土)(運営シミュレーション)のための模擬シミュレーション実施。全員で各ポジションにつき細かくシミュレーションした。

早くも
会員拡大!

広報班あちこち出張記

地域の防災訓練、イベントに、災害ボランティア連絡会 PR 部会は出店して広報活動に努めています!

10月13日高田地区大運動会

高田中学校で開催された高田地区大運動会のフリーマーケットに出店、広報活動を行いました。当日は絶好の晴天に恵まれ、高田地区の子どもからお年寄りまで、たくさんの方が参加する中、パネルを展示し当連絡会の存在意義を皆さんにお知らせしました。地震の震度分布や日頃の備えのパネルなどで災害対策について考えていただけたと思います。また古川さん提供の発展途上国の物品を販売し、災害ボランティア連絡会の資金の一助としました。

10月27日北綱島小学校防災訓練

訓練は地域の町会と小学校が協力して行われ小学生も授業の一環として参加しました。訓練内容は避難者受け入れ訓練、避難生活確保訓練、初期消火訓練、救出・救護訓練、起震車体験、煙体験、炊き出し訓練、緊急給水訓練、防災資機材取り扱い説明などで、小学生も楽しみながら体験していました。また今回古川さんよりパネルを立てるイーゼルを3脚いただき有効に活用いたしました。

11月8～9日 新田地区センター

広報活動とバザーを行い、3名の方が入会申し込みしてくれました。

12月1日 高田東小防災訓練

高田東小の防災拠点では東日本大震災後に運営委員会と学校とで協定を結び防災訓練を行ってきました。これまでは主に避難所の開設訓練として地域の方の小学校への集合と受付・登録、体育館へのスムーズな移動を訓練してきました。今年の訓練では避難所の運営訓練として、防災備蓄庫の資機材の点検や避難生活を送るうえで必要なことからの訓練をしました。200人ほどの地域の方々は、まずいっとき避難所に町会単位で集合し、受付・登録をしました。その際運営委員を補佐するボランティアを募りました。そしてまとまって高田東小学校に向かいました。小学校では避難場所となる体育館で災害時の対応のDVDを見て、小学4年生が授業で調べた地域の防災マップの発表を聞きました。その後3グループに分かれて、体育館での消防団によるAEDなどの救急訓練、1階教室でのボランティアの看護師の方々のコーナー、港北区災害ボ

ランティア連絡会のコーナーの見学、中庭でのアマチュア無線の方々のコーナー、資源循環局のコーナーの見学をしました。資源循環局のコーナーでは仮設トイレの組立と災害時の対応を聞きました。災害2日目から仮設トイレはバキュームカーで汲み取りを開始しますが、各避難所に仮設トイレは2台しかなく、トイレパックの備蓄も5000個しかないので各家庭での備蓄が必要とのことでした。港北区災害ボランティア連絡会はパネルを展示し、連絡会のニュースやチラシを配って災害ボランティアセンターの存在意義を皆さんにお知らせしました。

＊広報パネルは区社協3階多目的研修室に置いてあります。事務局にご連絡の上、地域活動等で積極的にご利用下さい。

横浜市の防災ライセンスはお得

横浜防災ライセンスとは、いざ災害という時のために、地域防災拠点に備えている防災資機材の取扱方法を身につけるための横浜市独自のライセンスです。他の地域で災害が起きた際の手伝いにも使えるものです。

講習内容は「生活資機材取扱リーダー」としての仮設トイレの組み立てと解体、移動式炊飯器や応急給水栓の使用方法、「救助資機材取扱リーダー」としてのレスキュージャッキ、発電機、投光機、エンジンカッターの使用方法を学びます。これらの資機材は各防災拠点の備蓄庫に置いてあります。いざという時には誰でもどこでも使用可能です。その取扱いの際、リーダーとして積極的に役割を果たしていければと思います。(野田)



エンジンカッターで壁に穴をあけます

「逃げ遅れる人々」上映会

この映画は障害者があの大地震の際にどんな困難にあったか、特に放射能に追われる福島の人々の苦労を追ったものです。障害当事者やその家族、施設職員のみならず、健常者も見て共に考え合う中身のものです。アンケートからは一般の方の参加も多く、その点は目的を果たす事が出来たかと思います。

災害時には多くの困難に見舞われるからこそ、自分たちだけで問題解決を追求するには限界があります。ハンディを持っていればなおさらです。だからこそどう支え合えばいいかを知るためには、普段から普通につきあう関係を作ることが一番なのです。災害時に共に生きのびるためには、普段から共に生きている事で可能になります。しかし同じく「要援護者」と言われる高齢者は自分たちの周りに多くおり、また自分の行く末でもあるから分かりやすいが、障害者になるとたちまち分からなくなり、敬遠する傾向が強くなります。学校時代からずっと一緒に育って行けばそんな事も無くなるのにと痛感します。「災害時にも共に生きる」ことをどう実現するかは、普段の暮らしでどう共に生きるのかに尽きます。アンケートでは防災訓練に対する悲観的意見が多く見られました。行ってもしょうがないと思わせない訓練のための具体的な提案も必要でしょう。この会参加者を中心に障害者防災を考えるメールマガジンの情報を不定期に流します。それを通じて日常的に障害者防災を考え合いたいと思います。本会の障害者関係団体も呼びかけたい相手です。ぜひご協力ください。

この上映会は港北区社協の助成金事業なので、区内の障害者関係団体を中心に、隣接区にはピラを送ったのですが、区外からの参加者も多く、広報のあり方で教訓を得ました。

(宇田川)

防災ギャザリングに出展します

今回「災ボラ活動における ICT 技術活用事例」の中で HP や twitter の活用事例を紹介いたします。共同展示になりますので、他区での IT ツールの活用事例も勉強できると思います。大島水害などでも HP や facebook が積極的に活用され多くのボランティアとボラセンを繋ぐツールとして活躍しました。また見学ツアーで行った浦安では twitter を活用してボランティアセンターの情報を発信し大きな効力を得ていたことを学びました。連絡会でも IT ツールを活性化して有事へのヒントを学ぶと同時に、他区との連携を強化して、災ボラの知名度向上と活性化を図っていきたいと思います。

防災ギャザリングは災害から自分や家族、地域を守るための減災・防災の「技」を学ぶ一般参加体験型防災訓練です。公助が届くまでの 72 時間を生き抜く知恵を考えてみるためにも、各地域の防災訓練を体験型に変えるヒントがたくさん含まれています。自分の地域の防災訓練に活かしてみたいはかがでしょうか？
(野田)

■ かながわ・よこはま防災ギャザリング 2014

日時：2014 年 1 月 18 日(土)9:30~13:00
会場：横浜市民防災センター及び沢渡中央公園

読んで役立つ災害本 避難弱者



相川祐里奈
東洋経済新報社

読んでいてため息の連続でした。情報が不十分なまま(被災地は常に

そうです)避難命令だ！と訳も分からぬまま、半ば無理やり寝たきりの方もバスの普通座席

に乗せて始まった避難生活がどれだけ困難で、かつお年寄りにどれだけ苛酷だったか。そんな辛い状況を、福島県内 20 施設を訪問し入念なインタビューをもとに当時を再現したのが本書です。

自分の家族の安否も確認できないまま介護に忙殺される職員、その結果生まれる葛藤といさかい。それは職員の心を蝕み、お年寄りの命の危機にも発展しかねません。避難したくとも約束された箸のバスが来ない。「おらがこんな状況だから、みんなおらのことおいて逃げなだべ」とつぶやくお年寄りとそれを聞かされる職員に心が痛みます。

原発の爆発によって不条理極まる世界に投げ込まれながらも必死にお年寄りを守ろうとする職員の意地と誇りがある中で、それを打ち砕く見えない放射能の恐怖。いわれなき風評がそれに追い討ちをかけます。

しかしこの本は原発の側面からのみ読み込むべきではないでしょう。「弱者」となるものをどう守るのか、災害時にはそれがどれだけ困難か、だからこそその備えはどうあるべきかを考えさせられる本です。
(宇田川)

編集後記

- ☆ 12 月 4 日は 1000 日忌でした。未だに更地のままの現地。自分たちは仮設で死ぬのだ、と諦める高齢者が東北には大勢います。(宇田川)
- ☆ 新治市民の森へバードウォッチングに行ってきました。良く手入れされた里山を 2 時間ほど歩いてリフレッシュしました(山本)
- ☆ 暦の上ではディセンバー！今年も残すところ 1 か月を切りました。何かと忙しい季節ではございますが、心にはゆとりを持って過ごしたいですね。(野田)
- ☆ 東日本大震災から 1000 日が経ちました。まだ 1000 日、もう 1000 日。被災地のみなさんにとっては、長くもあり短くもあつた月日だと思います。風化させることなく一緒に歩いていく 2014 年でありたいですね。(山口)